

## 石木ダム事業再検証

## 国の有識者会議 流会

## 反対地権者ら公開要求で



ダム事業に関する有識者会議の傍聴をめくり、国交省職員（手前）と押し問答する岩下さん（右から2人目）ら  
—22日午後、国交省

県と佐世保市が東彼川棚町に計画する石木ダム建設事業を再検証するため、22日に国土交通省で開かれる予定だった国の有識者会議が、公開を求める建設予定地の反対地権者らと国交省職員が押し問答になったため、開会不可能として流会となった。同省によると、同会議の流会は初めて。次の開催時期は未定。

全国的なダム事業の見直しを掲げた民主党政権の要請を受け、県や佐世保市など関係4自治体が2010年12月から石木ダム事業を検証。ダム建設がコストや実現

性などの面で代替案より優位と結論付け、昨年7月に継続の方針を国に報告した。こうした全国のダム事業主体が出した方針は、大学教授らで構成する有識者会議が再検証を続けており、09年12月から計21回開催。この日は石木ダムなど全国4事業

について協議予定だった。国交省は座席数に制約があることなどを非公開の理由としている。会議が開かれなかったことについて、村井徳美県土木部長は長崎新聞社の取材に「予想外で残念」と話した。

（中山雄一）

反対同盟「傍聴権利ある」  
岩下さん

「なぜ傍聴を認めないんだ」「ダムは絶対造らせないぞ」「議事が始まらないので出てください」。午後6時から開始予定だった国交省の有識者会議。開会直前、反対地権者らでつくる「石木ダム建設絶対反対同盟」の岩下和雄さん（64）や支援者ら数人が、マスコミだけに認められた傍聴を求め会議室に入ろうとした。だが入室を阻止する国交省職員とにらみ合いにな

り、警備員が駆け付けるなど騒然とした雰囲気。審議が始まらないまま30分すぎたころ、事務局が座長と協議し流会をアナウンスした。岩下さんは「審議をじゃましてしまったのではなく、傍聴を認めてほしかった。私たちは長年ダム建設に反対してきた。だれがどんな発言をしたのか聞く権利がある」と訴えた。

（大場泰造）